

7 みんなが主役 汗かきました！学びました！

中丹土地改良事務所

【概要】

「獣害防止柵設置」 福知山市大江町河東地区では近年野生鳥獣害による農作物被害が多発していることから、府営土地改良事業（ほ場整備事業）でほ場整備工事とあわせて獣害防止柵を設置することとしました。地元のみなさんとの話し合いの結果、身近な施設は行政任せでなく自ら取り組もうと、農村に暮らす人々が一丸となって、設置する事となりました。取組にあたってはボランティアの参加を呼びかけ、昼食の炊き出しや交流会をおこなったりして、地域の絆やコミュニティーの再生、さらに都市農村の交流の輪を広げることができたのではないのでしょうか。

「ため池の学校」 舞鶴市与保呂地内にある農業用のため池「芦ノ町池」の安全性を高め使いやすくするため、府営土地改良事業（ため池整備事業）で改修することとしました。芦ノ町池は与保呂地域唯一の水源地、海軍の水源地の補償として、100年前に地元の人たちが自ら築き、代々守ってきた貴重な農業用施設です。今回の改修工事にあたり、この貴重な地域の農業資源を守り育ててきた先人の営みや思い、併せて、ため池の仕組みや役割を、この地域の未来を担う子供達に是非とも伝えていきたいと、地元の人たちや小学校と一緒に「ため池の学校」を開催することにしました。ため池の現場を直に眼にし、役員さんから子どもの頃の地域の様子を聞いた子供達は興味津々の様子で、ふるさとへの思いを刻んでくれたことと思います。

背景

「身近な公共事業」

私たちが施策を進める農村は「生活と生産の場が一体」であることから、住み良い農村、作りやすい農地を作るため生活基盤と生産基盤を一体的に整備する土地改良事業を実施してきました。

いわば、土地改良事業は農村にとって、最も「身近な公共事業」といえます。

それは「土地改良事業」だ！

そのため、土地改良事業は農村に暮らす人々の発意により事業を計画し、行政と地元の間で十分キャッチボールをしながら進めるものです。また、地域に暮らす人々の施設整備であることから必ず何割かの地元負担（受益者負担）を伴うところです。

近年、農村は過疎高齢化の進展、農産物価格の低迷などで元気がなくなってきており、農村の底支えのためには土地改良事業はますます重要と考えます。

めざせ「^{さとじから}里力再生」！！

一方で土地改良事業も「公共事業」として行政が「事業主体」となって進める位置づけであり、農村の人たちも「受益者」としての立場上、ややもすれば、行政が一方的に事業を進めてくれるという受け身な思いがあるのも実態です。

そこで、もう一度「地域の事は地域で取り組む」という農村の原点に立ち返り、土地改良事業を単なる「公共事業」として「もの」をつくるだけに終わらせず、「村おこし」と位置づけ直して、「地域の絆」や「農村コミュニティ再生」、「^{さとじから}里力再生」(地域力再生)につなげていくことが出来ないかと考えました。

行政が一方的に事業実施するのではなく、地域が自ら取りくんでもらう、地域の中でも役員さん任せにするのではなく、子供達など世代を越えて事業に参加する。そのため、地域と行政が「協働」して取組を進めようと考えました。

目 的

「**獣害防止柵**」の設置を地域と協働して企画し、地域自らの手で設置することで「^{さとじから}里力」の再生につなげる。

「**ため池の学校**」を地域・小学校と一緒に考えて実施し、子供達の心の中に「ふるさと」への確かな想いを育てていく。

取 組

地元との話し合いの中からの気付

今まで、土地改良事業実施にあたって地元を「お客さん」扱いしてしまい、地元から要望や注文を付けられないのが、良いこと、何も言われずに工事さえ出来ればと思う側面が私たちの中にありました。

しかし、我々の土地改良事業の中でもっと「府民満足度」を高めたり、「府民参画」を進めるためには何が必要なのかと自問し、一歩踏み込んで地元の役員さんと話し合う中で、地元も決して受け身ではなく、自分たちの村を自分たちで何とかしていきたいと考えておられることに気づかされました。

「**獣害防止柵**」協働作業の取組へ

一方で、国の補助事業制度の中にも「農家・地域住民参加型直営施工」方式が制度化されており、この方式を活用し、「私たちも協働させていただくので、地元の人たち自ら獣害防止柵を設置してみませんか」と提案してみたところ、是非やってみようという機運が地元の中に起こりました。

さらに、どうせやるなら、広く呼びかけボランティアの参加や交流会の実施など都市農村交流・村内の交流にもつなげていこうと、いろいろなアイデアが提案されました。

「獣害防止柵協働作業」本番

当日は梅雨の晴れ間に恵まれ、地元30名、ボランティア9名(府立農大生2名)の参加のもと、1300mの獣害柵を5時間かけて仕上げる事が出来ました。



そうそう、そこでOK

ボランティアで駆けつけた府立農大生と地元の方とがうまくうちとけあってあって作業を進めました。「案ずるより産むが易し」でした。

もう少し待っててね。
しし汁すぐに出来るからね!

昼食会の準備を女性の方々に
お世話になりました。
ややもすれば、男性主導になっていた、ほ場整備ですが女性パワーが発揮されました。
協働作業の大きな収穫でした。



火加減どない。ぼちぼちちやいます。



薪で炊く羽釜のご飯はお年寄りならではの巧みの技です。

都市にとっても
農村は大事だと思
うんすよねー。

和やかな雰囲気の中
有意義な昼食交流会が
開催できました。



そうよねー



そう
そう

取組は「ため池の学校」へとつづく

芦ノ町池では、地域の小学校で米づくりをしていること、また地域の水路についても学習していることから、ため池ってどんなものなの？なぜ、そこにあるの？などの学習を試みようということになりました。「役所のする事で、子供にはわかりにくいかもしれない」と最初はあまり乗り気でなかった小学校側も、今回の「ため池の学校」の内容が、授業内容とリンクしている事や、実際に現場にいった経験する内容であること、一回きりの授業でないこと等を提案する中で、積極的にこの企画に参加してもらえることになりました。

学習を通して、池の仕組みなどが理解できるだけでなく、自分たちが住む地域にこんなにも大事にされている財産があることがわかってもらえれば・・・という思いでした。

「ため池の学校」開校！

小雨降る中、教室と芦ノ町池とにわかれ、与保呂小学校4、5年生（46名）参加のもとため池の学校が開校しました。講師は地元の方であったり、池の工事に携わる人みんなです。子供達は、ぜひ工事が終わった後も池に来てみたいな～と感想をのべていました。

これがため池の秘密だ



ため池の模型を目を輝かせて、自分たちで操作！

ため池の仕組みが良くわかって好評でした。

工事のために水を抜いたため池を見て、その大きさにビックリ！

はまったら、こわいな～という感想が多かったです。



でかいな～

オオー！



ため池周辺の貴重な植物の話や、ため池よもやま話も人気のコーナーでした。



地元の方や職員それぞれが講師となり、みんなで「ため池の学校」が開校できました。

効果

「獣害防止柵協働作業」

協働作業を実施した後、参加された地元の方々にアンケートをお願いしました、「協働作業をつうじて地域を守ろうという気持ちが沸いた。」「人と人の繋がりを改めて感じた。」と、今回の成功体験が地域に「自信」をもたらしたのではないかと思います。

また、振興局広報担当との連携の結果、新聞報道も4社にわたり、どの紙面も好意的で肯定的な報道で地元の方々にさらに大きな地域愛を育むことになったと思います。なかでも地元紙には作業当日の夕刊に掲載いただきました。地元へ配達された紙面を現場で一番に見せてもらい、ボランティアの方々や我々職員一同も士気が大いに盛り上がり、次へつなげる思いが共有できました。

「ため池の学校」

「ため池の学校」に参加した生徒達が感想文を書てくれましたが、そのほとんどが「また工事が終わったら行ってみたい」「田んぼに水を流す仕組みが良くわかった」というもので、与保呂という地域にこんな大きなため池があって、米づくりには欠かすことができない事などが良くわかったようです。

また、小学校も米作り以外にも、ため池の学習が出来ることで、水をテーマにした地域学習ができると好評でした。

ともかく、今まで行ったこともないと言っていた子供達が、自分たちの住む与保呂のため池に興味を持ってくれた事が一番の収穫でした。

また、今回の授業を通して、小学校の先生自身が、ため池の事に興味をもってくれたり、子供にもわかりやすい内容で授業をしてもらえるんだと思ってくれた事が次のステップにつながると思います。

現在

「獣害防止柵協働作業」

去年の成功に引き続き、今年も新しく完成したほ場で「獣害防止柵協働作業」をおこないい、地元40名、ボランティア8名、府立農業大学校生3名の参加で800mの獣害柵を完成しました。作業後は現地ほ場で、地元篤農家による「即席農学校」が開催され、農大生等が実習を交え特産のエビイモ（京のブランド野菜）栽培について学びました。また、農産物の販売予約もおこなったりして、さらに交流の輪が広がりました。

今年は打ち
易いね



学生諸君
これがエビ
芋じゃよ



「ため池の学校」

今年も引き続き、「続・ため池の学校」として10月に開校しました。小学校の思いもあり、昨年授業を受けた児童が、引き続き参加しました。内容は昨年とは変え、今まさに工事中の芦ノ町池を見てもらい、どんなふうに。ため池の工事がされているのか？ 変わりつつある芦ノ町池を目に焼き付けてもらいました。

実際に工事で使う機械に乗ったり、去年は行けなかった池の奥まで行ったり、はたまた池の水で発電したりと、さらにため池への理解が深まったようでした。



ス、スゴイッス!!

タイヤローラー体験



ため池大実験大成功

池を見ながら、池の模型操作。
う~ん 良くわかる!

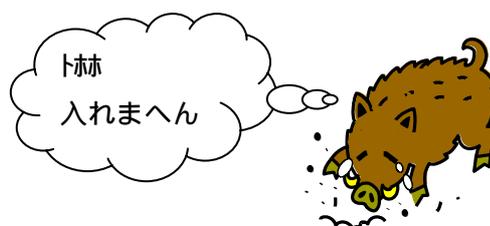
振り返りと今後の課題

「獣害防止柵協働作業」

「村おこし」の起爆剤として実施してきた「獣害防止柵協働作業」ですが、地元に着してきたように思います。今後は今までのように行政がお膳立てをするのではなく、地域の企画として、いろいろな取組に発展していけばと考えます。

また、村の取組は年輩の男性役員さんが中心となって進めがちですが、女性や若い人たちも無理なく企画に加われるような、仕組みづくりを進めていきたいと思います。

報道機関への案内は送りっぱなしとせず、実施の直前に出席者の人数や企画の具体的な内容など新しい情報を付け加え再度案内したり、振興局からも別の切り口で案内をしてもらったりしたことが結果として報道機関に興味を持ってもらったのではないかと思います。



「ため池の学校」

今後も、かかわるすべての人が講師となり、みんなで考えて取り組めるものにしたいと思っています。また、自己満足な部分もあるかもしれないので、学校の先生との交流を取りながら、今後もこのような取り組みをしていきたいと考えます。

与保呂小学校からは、来年もぜひ続けて実施をしてほしいと言われ、われわれにとっても、地元にとっても、小学校にとっても有意義な取り組みであるな～と考えています。